

令和6年度 学校園評価(関係者評価)シート

学校園名

加古川市立野口幼稚園

1 教育目標

心豊かに学び合い 育ちあうこどもの育成

2 基本方針

心も体も健やかで明るい子
自分の思いを伝え素直に表現する子思いやりがあり心の優しい子
感じる心考える力がある子

様々な経験を通して主体的に遊ぶ子

3 指導目標

(1) 基本的習慣の確立と健やかな体づくりの促進

(2) 様々な遊びや交流体験を通して、人との繋がり大切さを感じる子を育む

(3) 幼児が主体的に遊びを展開できるよう環境を構成する

(4) 校区ユニットの連携や小学校への円滑な接続を図る

(5) 教師力の向上

評価基準

A: できている

B: だいたいできている

C: あまりできていない

D: できていない

E: わからない

重点目標	評価項目	達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ (関係者評価)	達成状況
(1) 基本的な生活習慣の確立と健やかな体づくりの促進。	◎心も体も健やかで 明るい子 ・「早寝早起き朝ご飯」の励行 ・身辺自立に向けた丁寧な個別の援助 ・気持ちのよい挨拶の推進 ・体を使って遊ぶ環境の工夫	A	朝のあいさつができる子が増えている。気持ちのよいあいさつから一日をスタートできるように継続していく。身辺自立については、家庭との連携が大切であり、細やかに働きかけながら、「小さなできた」を積み重ねられるよう援助していく。	園児が元気で伸び伸びとしており、園に活気が感じられる。自分から行動しようという姿も見られる。引き続き、細やかな指導をお願いしたい。	A
(2) 様々な遊びや交流体験を通して、人との繋がり大切さを感じる子を育む。	◎思いやりがあり 心の優しい子 ・友達や異年齢児との関わりの中で、相手の気持ちに気付いたり共感したりする経験を重ね、思いやりの心を育む。 ・親子の触れ合いを通して安心感をもち、一緒に活動する楽しさを感じられるようにする。	A	3, 4, 5歳児のなかよしペア活動を年間を通して行ったことで、年下の子の気持ちを考えて世話をしたり、してもらった感謝の気持ちをもったりと双方の心の育ちに繋がった。また、親子活動の機会を増やし、一緒に活動したり触れ合ったりしたことで心の安定にも繋がっており、取り組みを継続したい。	3歳児クラスがあることで、4歳児、5歳児が年長者という意識をもって、落ち着いて生活していると感じる。様々な交流体験も意図的にできており、園児の育ちに繋がっている。	A
(3) 幼児が主体的に遊びを展開できるよう環境を構成する。	◎様々な経験を通して 主体的に遊ぶ子 ・様々な環境に触れ、「面白そう」「不思議」「やってみたい」という興味や関心を高める。 ・遊びの実現に向けて試行錯誤を繰り返し、諦めずに取り組む姿勢を支える。 ・協同的な遊びを通して、葛藤や喜びを感じながら、やり遂げた満足感を味わえるようにする。	B	幼児がワクワクできる遊びの場を構成するために、学期毎に園内研修を行い、教師間で意見を交わしながら環境を再構成していくことができた。学びの姿を読み取ることに力を入れ、こどもと共に主体的な遊びを進めていけるように遊びの経過を可視化していく必要がある。保護者アンケートでは、「やってみようとする気持ち、諦めずに挑戦する気持ちももてた」という項目で高評価であった。特に運動会の遊びを通して、友達と一緒にやり遂げる満足感を味わうことができた。行事の取り組み方やねらいについて次年度も討議し、計画していきたい。	各行事を参観し、先生方が園児に主体性、自主性を育てようとしていることがよく分かる。園児数は減少傾向であるが、その分、一人一人の役割が多く、いろいろな機会が得られることは非常に良い。園児の自由な発想を大切にしていって、保育内容を充実させ、保育力の向上に努めてほしい。	B
(4) 校区ユニットの連携や小学校への円滑な接続を図る。	・野口小学校への円滑な接続(相互参観、行事参観) ・中部中学校(トライやるウィーク、保育実習)、老人クラブ、地域ボランティアの方々など、地域の方との交流 ・スクリレの活用による積極的な情報発信	B	1年生の様子を一学期に、5歳児の様子を三学期に相互参観を変更したことで、接続期の様子が互いに分かり、スムーズな接続に繋がった。次年度は、こどもの学びの姿を小学校に伝えていくことが課題である。老人クラブや地域ボランティアとの交流を計画的に行うことができ、幼児にとって親しみの気持ちや感謝の気持ちをもつ機会となった。	老人クラブとの年間を通しての交流が高齢者に好評で、園児の育ちに繋がると同時に、高齢者にとっても楽しい機会となっていることが良い。小学校との連携についても、この調子で進めていってほしい。	A